



母乳育児中の お薬ガイド

授乳期に飲んでいいお薬一覧

©Copyright 2023 All Rights Reserved by Keiko Etsuki.



目次

1. 母乳とくすり わが国の現状
2. 母乳とくすり 海外の考え方
3. 乳腺炎の初期に飲める市販薬
4. 解熱鎮痛剤
5. 抗生物質
6. 花粉症の薬
7. インフルエンザの薬
8. おわりに
9. 参考文献
10. 著作権について



1. 母乳とくすり

わが国の現状



わが国では
医薬品添付文書に従った説明をすることが一般的です。

添付文書によると「投与中は授乳を中止させる」と「授乳を避けさせる」が3/4を占めています。

そのため、添付文書の記載に従えば、薬を飲んだ母親の多くが授乳できないこととなります。

日本の現状では医師が薬の処方考えた時
「薬を服用するなら授乳をやめるか」
「授乳を続けるなら薬を服用しない」の選択になることがおおいのです。

特に産婦人科以外の医師がそう考えても無理はない現状があるのです。

2. 母乳とくすり

海外の考え方



UNICEF/WHOでの発表

「ほとんどの薬は非常にわずかだが母乳に移行するが、赤ちゃんに影響をあるものはほとんどなく、授乳をやめることの方が薬を服用するより危険である」

UNICEF/WHOやアメリカ小児科学会（AAP）

授乳禁忌とされる薬剤 3%

注意すべき、あるいは影響に懸念のある薬剤 23%

授乳中に使用しても差し支えない 74%

授乳中でも飲める薬のほうが多いことを示しています。

今回、信頼できるサイトや文献を参考に
日頃お母さんが内服する機会があるお薬について
授乳中でも飲んでいいお薬を一部掲載しました。

参考になれば幸いです。



3. 乳腺炎の初期に飲める市販薬

漢方薬

乳腺炎初期に飲める薬として葛根湯(カクコントウ)があります。

悪寒、発熱、肩こり、疼痛、乳房の腫れの改善などに効果あり

葛根湯は市販薬があります。メーカーによって生薬の分量は微妙に違いますが、そんなに気にしなくてよいでしょう。

市販されている一般漢方薬は病院で処方される医療用漢方薬の50～80%の分量のことが多いです。

市販薬は不特定多数の人が服用しても副作用が起こりにくいようにしているのです。

なので、病院を受診して処方された葛根湯の方が効き目が良いでしょう。

でも、すぐに受診できない場合、気軽に買える市販の葛根湯は助かります。

4. 解熱鎮痛剤

授乳中に安全に使用できると考えられる薬



代表的な商品名（成分名）

- ・ カロナール
（アセトアミノフェン）
- ・ セレコックス
（セレコキシブ）
- ・ ブルフェン
（イブプロフェン）
- ・ ナイキサン
（ナプロキセン）
- ・ インテバン
（インドメタシン）
- ・ ロキソニン
（ロキソプロフェン）
- ・ カピステン
（ケトプロフェン）
- ・ フロベン
（フルルビプロフェン）
- ・ ボルタレン
（ジクロフェナク）
- ・ バキソ
（ピロキシカム）



5. 抗生物質

授乳中に安全に使用できると考えられる薬

代表的な商品名

- ・ジスロマック
- ・アザクタム
- ・サワシリン
- ・パセトシン
- ・ビクシリン
- ・ビクシリンS
- ・エリスロシン
- ・クラビット
- ・タリビット
- ・ダラシン
- ・クラリス
- ・ケフラール
- ・セファメジン
- ・ケフレックス
- ・セフォタックス
- ・ホスミシン
- ・ペニシリンG
- ・ロセフィン
- ・バクシダール
- ・バンコマイシン
- ・ペントシリン
- ・モダシン
- 他にもあり



6. 花粉症の薬

授乳中に安全に使用できると考えられる薬

抗ヒスタミン薬

- ・ レスタミン
 - ・ ペリアクチン
 - ・ ベネン
 - ・ ジルテック
 - ・ アレグラ
 - ・ ポララミン
 - ・ ディレグラ
 - ・ クラリチン
 - ・ ベナ
 - ・ トラベルミン
- 目のかゆみには
インターール点眼

ポララミンは眠気を感じるお母さんも多いです。
眠気が強いようであれば、避けた方がよいでしょう。



7. インフルエンザの薬

授乳中に安全に使用できると考えられる薬

- ・タミフル
- ・リレンザ
- ・ラピアクタ
- ・イナビル

もしも、インフルエンザにかかったら
お母さんはマスクをして、手洗いをいつもより十分行い
授乳を続けましょう。母乳からはうつりません。

授乳以外の家事は
ご主人や周りの方に手伝ってもらい、休みましょう。

8. おわりに



母乳とくすりを取り巻く現状は日本と海外では違うと冒頭で説明しました。

UNICEF/WHOやアメリカ小児科学会が出した多くの資料を日本のすべての医師が目を通し、理解するのは困難だと思った方がよいでしょう。

そのため、医師（特に産婦人科以外）から「薬を内服するなら授乳をやめましょう」と言われた場合でも内服しながら授乳を続けることも可能な場合が多いのです。

どうしようと悩んだら、えつき助産院にご相談下さい。

ご相談方法はご来院でもオンラインでも可能です。



10. 参考文献



参考文献

- ・ 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
国立成育医療研究センターホームページ
(2023年5月20日取得、<https://www.ncchd.go.jp/index.html>)
- ・ 水野克己.母乳とくすり-あなたの疑問解決します-.
南山堂出版.2009.294P
- ・ 母乳とくすりハンドブック改訂3版.
大分県地域保健協議会発行.2017.258P

授乳中に薬を飲もうか悩んだときに
少しでもお役に立てば幸いです。

10. 著作権について



この小冊子の利用に際しては、以下の条件を厳守して下さい。

この小冊子に含まれる一切の内容に関する著作権は、小冊子作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なくこの小冊子の全部又は一部を複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事・刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

小冊子作成者は、この小冊子の内容を正確性、安全性、有用性などについて、一切の保証を与えるものではありません。また、この小冊子に含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接に生じた損害について一切の責任を負わないことをご了承願います。

この小冊子の使用にあたっては、以上にご同意いただいたうえ、ご自身の責任のもとご活用頂きますようお願いいたします。

■ 著書プロフィール

悦喜 桂子
(えつき けいこ)



母乳育児カウンセラー
元JA広島総合病院産婦人科病棟科長

山口県岩国市出身、広島市在住。一男一女の母。

自らの母乳育児の経験から母乳育児で悩むお母さんのお役に立ちたいとの思いから助産師になる。

2012年4月にえつき助産院を開業。お産の現場に18年、母乳ケア歴28年、一男一女の子育ての経験を活かし、活動中。延べ15000名以上の母乳ケア実績あり。

母乳育児中のお薬ガイド
授乳期に飲んでいいお薬一覧

著者：悦喜 桂子

連絡先：えつき助産院 えっちゃん母乳育児相談室

〒738-0024 広島県廿日市市新宮1丁目13-18 大野ビル501

☎ 0829-31-5366

✉ info@etsuki-mw.com